

なるほど その20
本願寺

本願寺 恒例法要と行事 2月 2月7日 如月忌

仏教婦人会活動や関東大震災の被災者支援など、多くの業績を残された九條武子さまのご遺徳を偲び、ご命日である2月7日に法要・行事が行われます。

九條武子さまは本願寺(西本願寺)第21世明如宗主の次女として明治20年(1887)に生まれ、やがて男爵・九條良致と結婚した。その間、真宗婦人会(現・仏教婦人会総連盟)の総裁代理、本部長となり、真宗婦人会の近代化に対して重責を担った。さらに義姉・大谷籌子さまの意志を継ぎ、京都女子高等専門学校(現・京都女子大学)の設立に尽力した一方、絵画、華道、和歌などの諸芸にも優れていた。



九條武子さま

大正12年(1923)9月、武子さまは東京・築地別院(現・築地本願寺)で関東大震災に見舞われた。自身が被災しながらも、慰問品の分配や着物の縫い直し、また託児所での子供たちの世話など、救援、慈善活動を積極的に展開した。また、慈善活動の一環として被災児童の生活の場「六華園」の創設、震災直後の日比谷公園に設置された「本願寺救護班」、その後の「築地本願寺診療所」の開設、そして、「あそか病院」建院に大きく関わった。

昭和3年(1928)2月7日、42歳という若さで還浄した。そして、武子さまの夢であった「あそか病院」も昭和5年(1930)11月診療を開始した。

震災後の本願寺の救護、慈善活動に身心を込めた武子さまの活動は、宗祖親鸞聖人のみ教えに導かれたものであった。

仏教婦人会総連盟では、武子さまの命日を「如月忌(きさらぎき)」と称して、その遺徳を偲んでいる。(龍谷ミュージアム 特集展示冊子より)

住職レター

今年の一月十六日、皆さんはどんな思いで過ごされましたか？

またこの日は、何の日かご存知ですか？

一月十六日は、親鸞聖人の命日です。一二六三年一月十六日に往生されました。一昔前は、親鸞聖人を

偲んで、生き物の殺生をしなかった為、漁師さんは海に出なかつたとのこと。ですから、魚屋さんも商品が入らず休業されていたそうです。当然、多くの真宗門徒の方々は、精進料理で偲ばれました。時代が変わり、親鸞聖人の命日を意識する方は少なくなつたようです。致し方ありません、親の命日さえも忘れる時代なんです。時代の変化



親鸞聖人

とはいえ寂しい現実です。

気を取り直しまして、

本願寺では親鸞聖人の

命日をご縁に勤まる御

正忌報恩講法要の期間、

通常非公開の国宝書院『鴻之間』にて、江戸時代から変わらぬ食材を用いた伝統の精進料理を、朱塗りの什器やお膳で頂くことが出来ます。薄暗い『鴻之間』にて頂く精進料理は、格別の雰囲気ですよ。ぜひ一度、味わってみてください。

来年の一月十六日は、親鸞

聖人を偲んで精進料理を頂い

てみてはいかがでしょう？



鴻之間にて御正忌報恩講法要 お齋の様子